

The Library

鹿屋工業高校

図書室

H22.2.10 発行

立春が過ぎ、学校内でも少しずつ春が感じられるようになりました。

皆さんのまわりではどうですか？

図書室でも「春」が感じられるような本や展示で皆さんをお待ちしています。



「若い人に贈る読書のすすめ・2010」

毎年この時期、「読書推進運動協議会」が推奨している本の紹介です。

図書室に展示中ですので、新たな一歩を踏み出す前にぜひ手にとってみてはいかがでしょうか？

「神去なあなあ日常」

三浦しをん・著

高校卒業と同時に、携帯の電波も届かぬ三重県山奥に行った主人公。自然相手の仕事に…。林業の現場で生きる人々と主人公・勇気の成長ドラマ。



イチオシ！

この本は

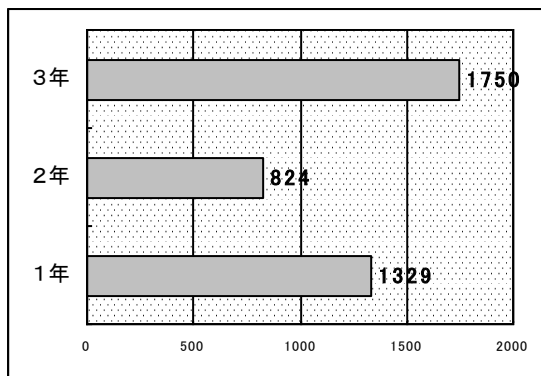
「2010年本屋大賞」

にもノミネートされていますよ。

早めにチェック！

学年別貸出統計 (H21.4.～H22.2.5 まで)

貸出総冊数 3,903 冊



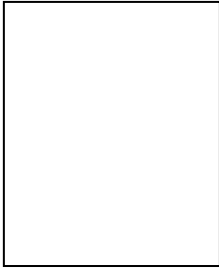
返却期限の過ぎている1・2年生は2月中に必ず返却してください。ご協力よろしくお願いします。

映画のポスターが 届きました。

図書室前の廊下に最新映画情報のチラシが掲示してあるのは皆さんご存知かと思います。新たにポスターも届きました！これからも変えていくのでぜひ図書室前の掲示にも注目してくださいね！映画化された本の紹介は図書室内のあちこちで紹介しています。原作本にも挑戦しよう！



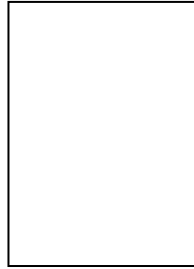
3年生から後輩の1・2年生へ おすすめの本



「ラフリー・ボーン」
アリス・シーホルト著

少女が、ある日殺されたことから始まる物語で、その犯人を捜すことに人生を費やす父、娘を守れなかったと罪を感じて家を出た母、妹・幼い弟も姉の死を引きずっている…というように家族愛も感じられる！

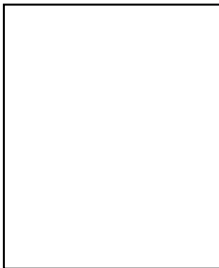
少女が天国から伝えたいことは何なのか…とても気になって読んでいけると思います。



「少年陰陽師」シリーズ
結城光流・著

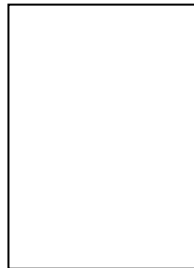
主人公はかの有名な「安倍清明」の孫。故に舞台は平安時代となるが、平安時代の知識が無くても読むことが出来るのがこの本の良いところでもある。

主人公の前向きで懸命な姿に心動かし、成長する様を楽しく読むことが出来る本だと思う。



「黄昏色の詠使い」シリーズ
細音啓・著

作者独特の「世界」「魔法」「物語」が織りなす1冊。全てオリジナルでなかなか読みにくいところもあるが、意外とシリーズを一気に読むことができる。勇気をもらえる本でもあるのでぜひ読んで欲しい。挿絵もキレイなので注目！



「タラ・ダンカン」シリーズ
ソフィー・オドゥワグ＝マミニオン著

フランス南西部のひなびた村・タゴン。古い館でおばあちゃんと暮らしている12歳の少女・タラ。ある日、タラに不思議な力が備わっていることが判明する…。現在4巻まで図書館にあります。ぜひ読んでみて。



2月22日は「猫の日」(=^・^=)

猫の「ニャン、ニャン、ニャン」という鳴き声をもじって1987年につくられた。猫の写真集が図書室にもあるので、ぜひ手にとって和んでみてはいかがでしょうか。ちなみに「犬の日」は11月1日。

司書のお気に入り

卒業前の3年生にピッタリの1冊を紹介します。



『放課後』

学校風景の写真とそれに合った短歌で、3年間の高校生活をたくさん思い出すことができるかもしれません！